



2006.02.10

第3回グリーン物流
パートナーシップ会議

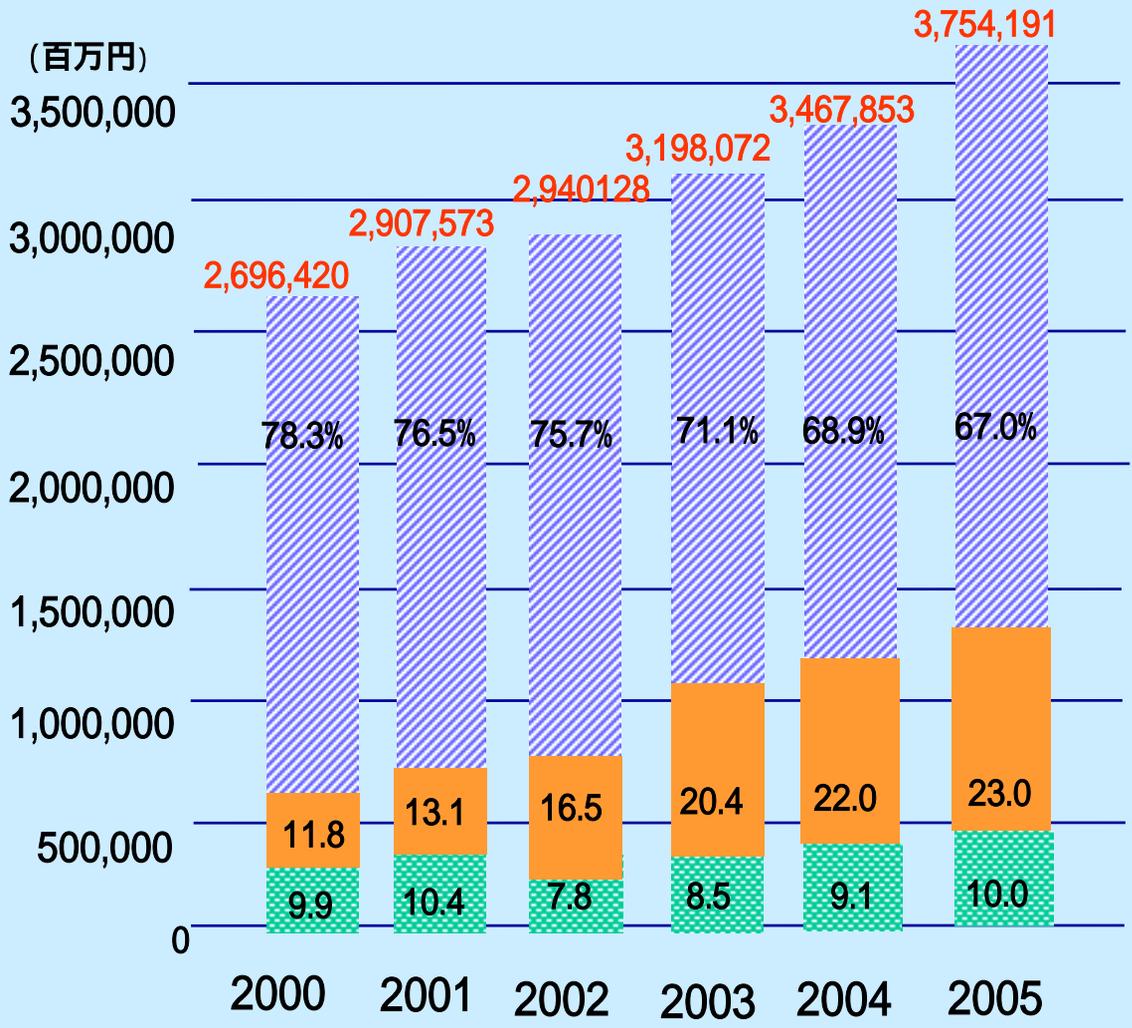
キヤノンの環境経営と ロジスティクス分野の環境対応

キヤノン株式会社
常務取締役
江村 祐輔

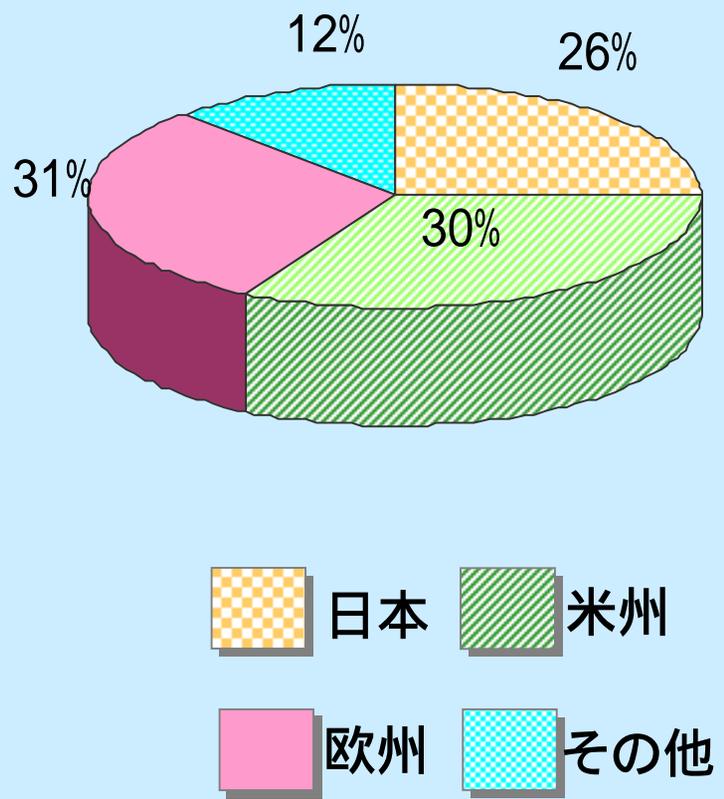


キヤノングループ売上高

 事務機器
  カメラ
  光学機器 / その他 (2004)



地域別売上高 (2005)





キヤノンの代表的製品群

Personal



Business



Industry





企業活動への制約とインセンティブ

環境規制の強化

環境配慮製品の
優先購入



環境コストの負担

環境配慮企業へ
の優先投資



キヤノングループ環境憲章

企業理念

2004年8月改定

共生

(1988年制定)

世界の繁栄と人類の幸福のために貢献すること
そのために企業の成長と発展を果たすこと。

環境保証理念

世界の繁栄と人類の幸福のため、資源生産性の最大化
を追求し、持続的発展が可能な社会の構築に貢献する。

キヤノンの環境方針

「資源生産性の最大化」

限りある資源を最大限に有効活用することで、経済と環境の両立を目指す。



EQCD思想

E Q C D

Environment (環境保証)

環境保証ができなければ作る資格がない。

Quality (品質)

品質が良くなければ売る資格がない。

Cost (コスト)

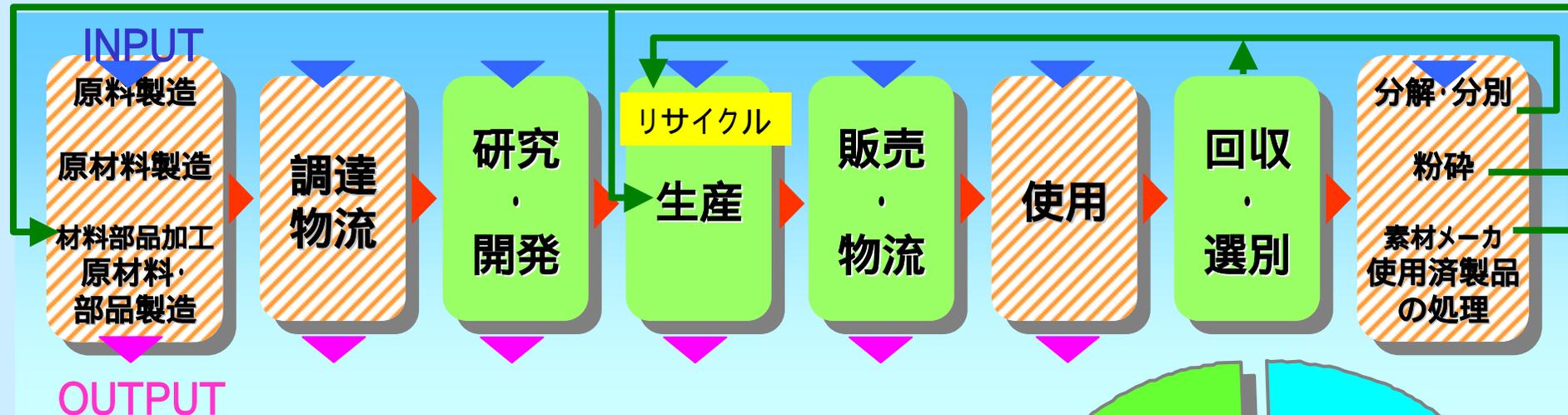
Delivery (納期)

} コスト、納期が達成できなければ
競争する資格がない。



キヤノンの環境側面

ライフサイクル全体で資源生産性を目指す



【キヤノンの環境負荷】

間接的環境負荷

直接的環境負荷

リサイクルの流れ

■ キヤノングループの直接・間接の資源・エネルギーの消費をCO₂排出に換算(2004年)

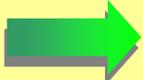




2010年ビジョン

総合指標：ファクター2

$$\frac{\text{売り上げ高}}{\text{ライフサイクルCO}_2\text{排出量}}$$
 を2000年比2倍以上にする

原材料  キヤノン  使用  リサイクル

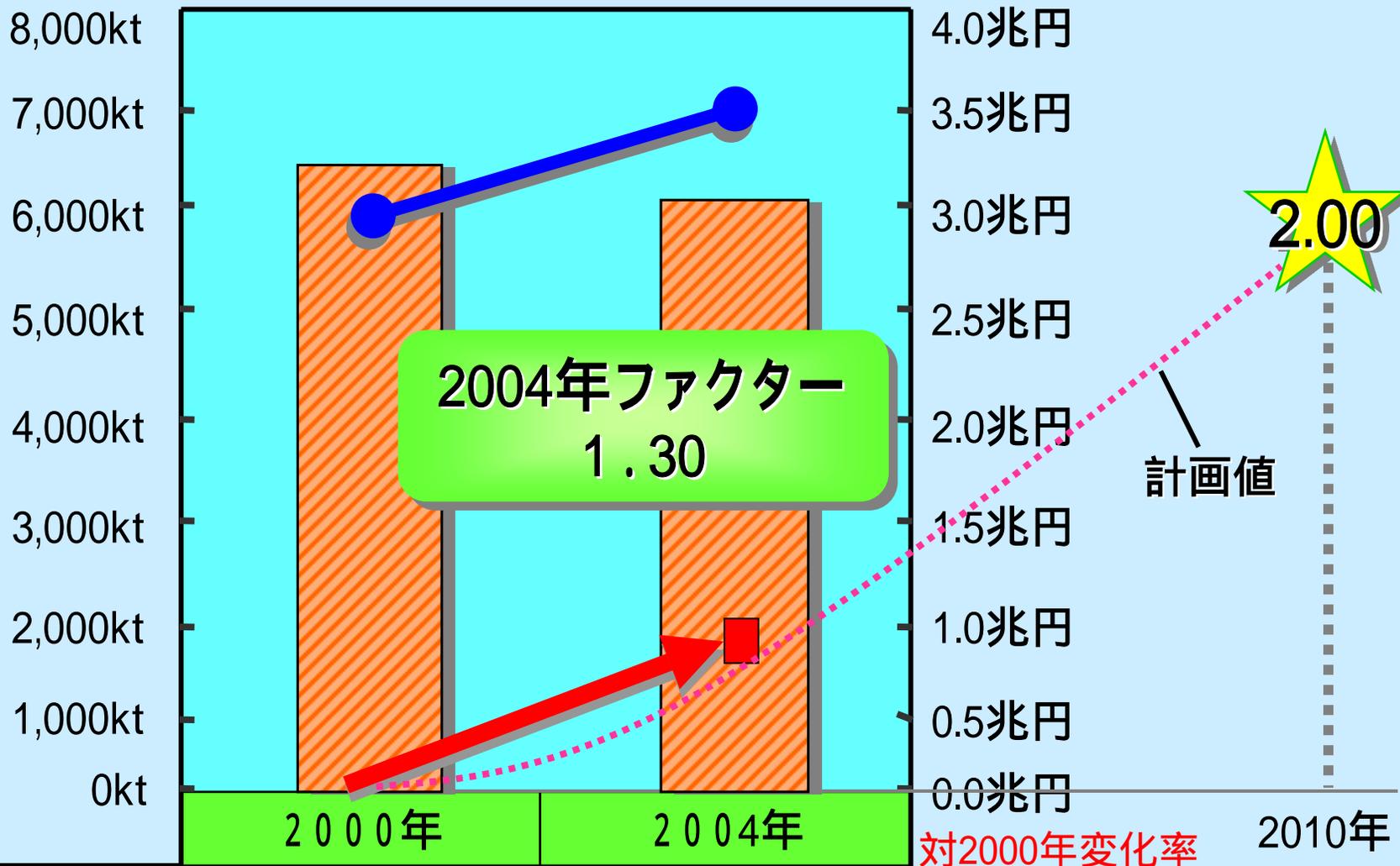
売上高 …… キヤノングループ連結決算

ライフサイクルCO₂排出量 …… 連結決算に含まれる全製品の「資源採掘」から「廃棄リサイクル」までのCO₂排出量

* 有害物質は最優先とし、規制に先行して取り組む



2004年ファクター算出結果



対2000年変化率

+ 28.6%

- 1.2%

●—● 連結売上

2.70兆円

3.47兆円

■ 環境負荷

6,099kt-CO₂

6,024kt-CO₂

環境経営システム

環境憲章と環境ビジョン

ISO14001統合認証

中期環境目標 (PLAN)

環境保証活動
の改善・強化
(ACTION)

資源生産性の
最大化

環境保証活動
(DO)

環境業績評価 (CHECK)

連結業績評価 (CHECK)



環境対策の3本柱

■ 省エネルギー

地球温暖化防止活動

1. 製品
2. 事業所活動(生産)
3. ロジスティクス

- ・ ライフサイクルを通じて環境負荷を最小化する
- ・ 法規制の先取りで競争力につなげる

■ 有害物質廃除

有害物質の廃絶

■ 省資源

リサイクル
廃棄物対策

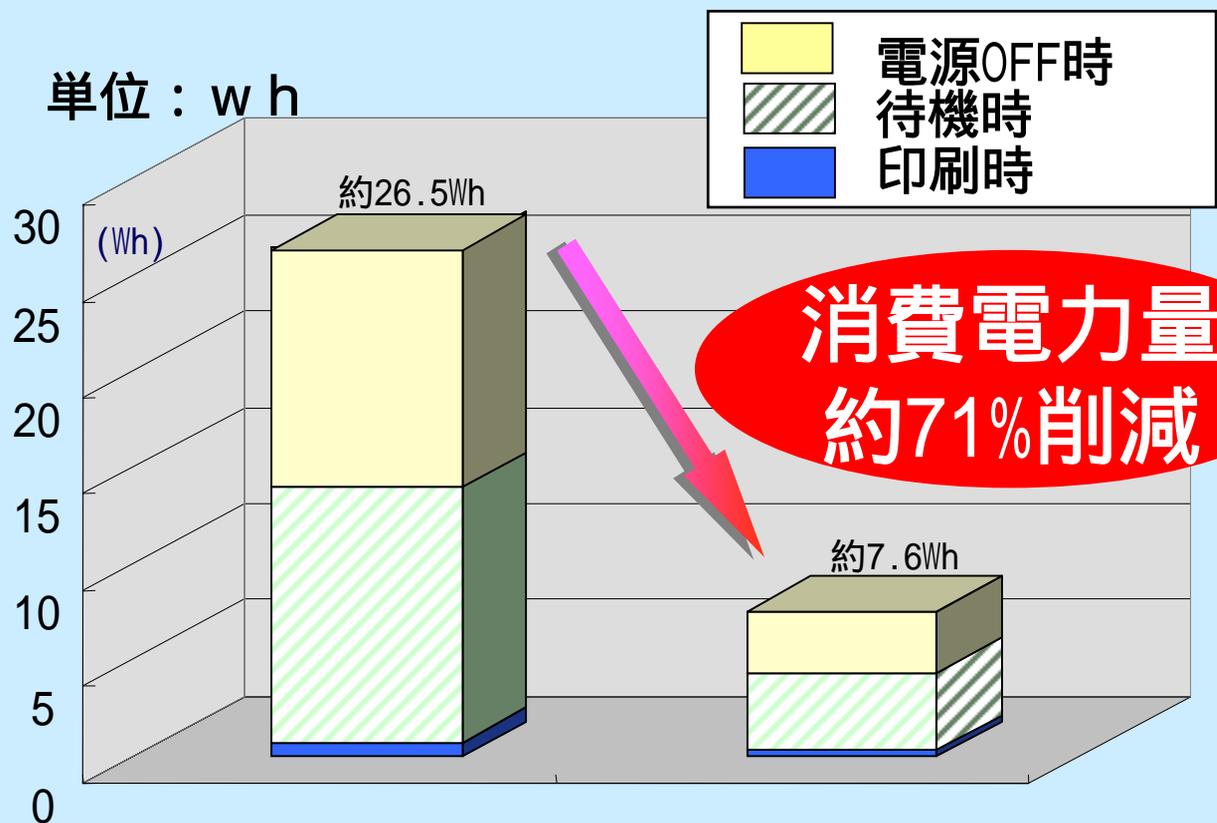


製品における省エネルギー（事例）

製品の省エネルギーを通じて、顧客のCO2削減に貢献する

1日当たりの消費電力量の削減

BJプリンタの事例



BJ S600
(2000年発売製品)

iP4100
(2004年発売)

【前提条件】
『電源OFF時』の状態を16時間とし、残り8時間のなかで
カラー15枚、モノクロ15枚の連続印刷に有する時間を
『印刷時』、それ以外の時間を『待機時』とする。

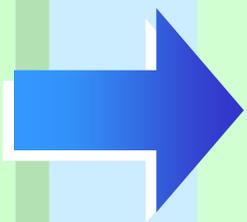


事業拠点活動における省エネルギー活動(事例)

生産革新による省エネルギー効果 (98~05年)

革新項目

- ベルトコンベア撤去
20.2km
- スペース削減
114万m²
(東京ドーム24個分)
- 自動倉庫の撤去
52システム
- 外部倉庫返却面積
15万m²



生産性向上・省エネ効果(累積)

- 活人
56,345人
- 仕掛回転期間短縮
38%

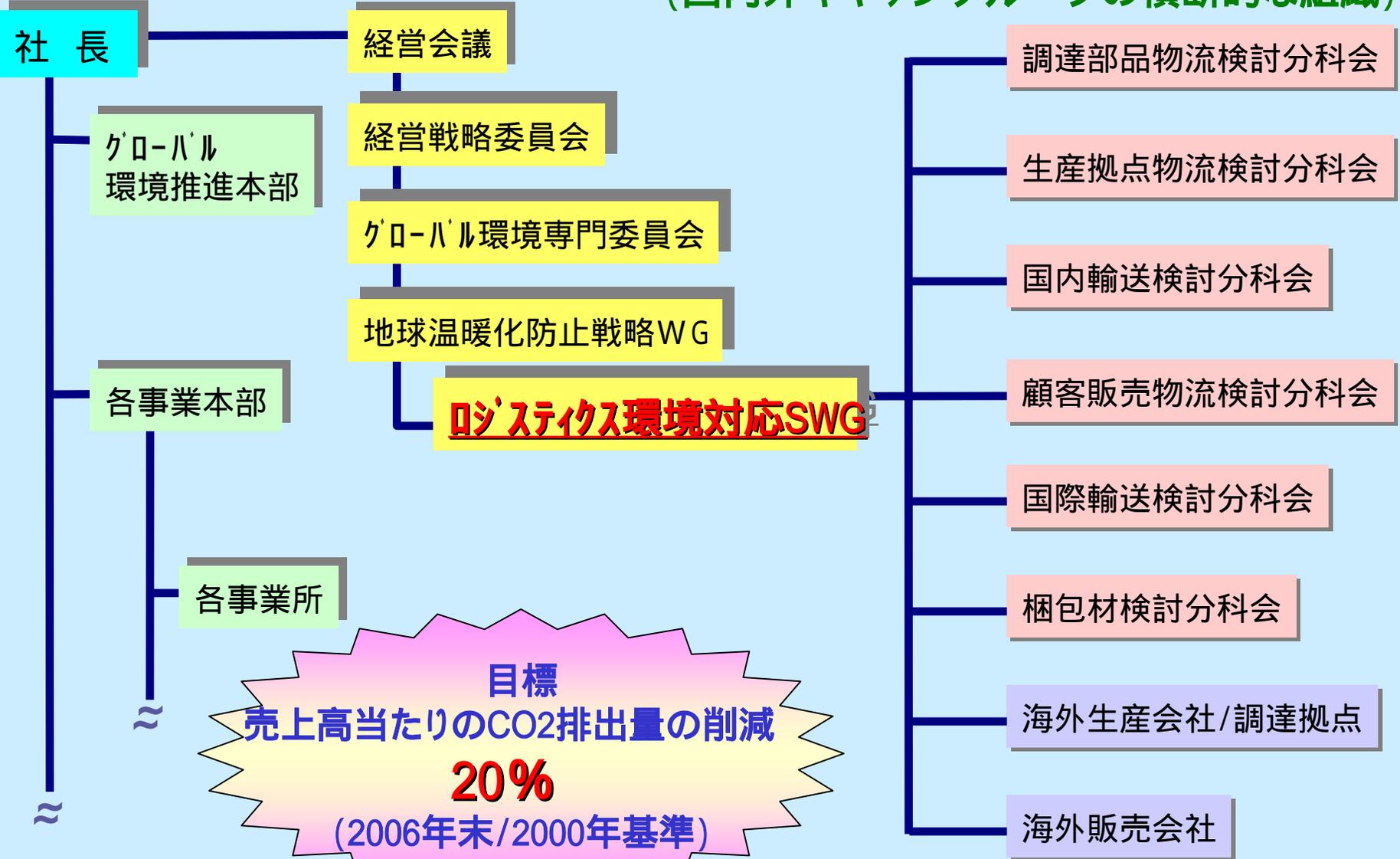
■ 省エネ
84,778tCO₂/年
(CO₂排出量換算)



ロジスティクス環境推進体制

キヤノン株式会社

(国内外キヤノングループの横断的な組織)





国内ロジスティクス環境対応活動

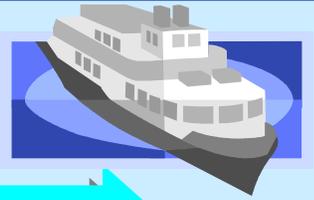
包装設計



梱包容積の削減



輸出上屋

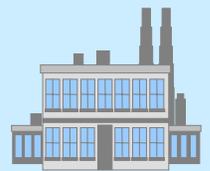


輸出物流

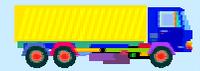
海上コンテナラウンド利用



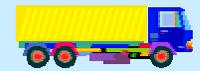
協力会社



工場



キヤノン物流センター



キヤノン販売物流センター 顧客



調達物流

工場物流

製品物流

販売物流

- 共同輸送
- 荷姿改善

- 積載効率向上
- モーダルシフト (鉄道利用)

- モーダルシフト フェリー利用
- 鉄道利用

- 連結物流による直送
- 営業車の低公害車切換



キヤノンのモーダルシフト網



**製品輸送、部材輸送、回収輸送それぞれの
 中長距離輸送を「モーダルシフト」へ**



新コンテナの開発



新コンテナによる関東 大阪の輸送は日本通運(株)、日本貨物鉄道(株)、キヤノン(株)の名前で、国交省の「平成15年度環境負荷の小さい物流体系の構築を目指す実証実験」の認定を取得

新コンテナ開発を含むキヤノングループの鉄道利用の取組みが「第4回鉄道貨物振興奨励賞」の最優秀賞を受賞



キヤノングループの鉄道利用実績

1,600
12ftコンテナ
換算本数



12ftコンテナ換算

2005年 月平均1150本の鉄道シフト
約4600台 / 年の大型トラックに相当

船舶を含めたモーダルシフトで
年間2800トンのCO2を削減



2005.5月 鉄道利用推進により
エコレールマーク企業認定取得

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

2002

2003

2004

2005

製品包装改善 トナーカートリッジ用緩衝包装材

新方式(AIR SHELL)

ポイント1
包装材を小型化

約30%小さく！

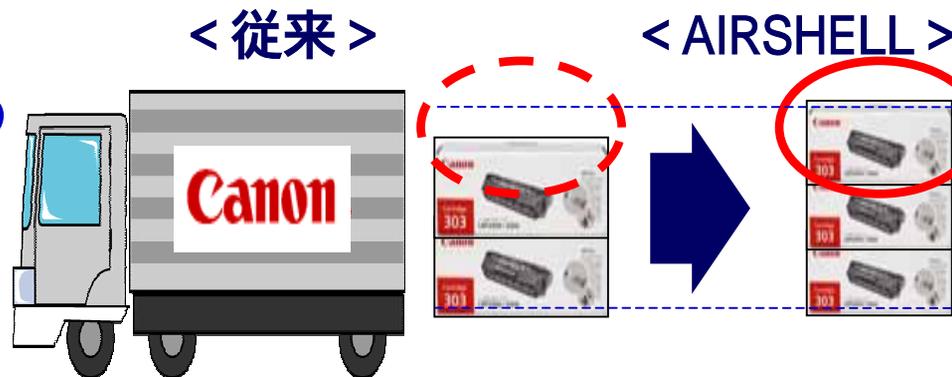


“空気”で包みこむ
新技術



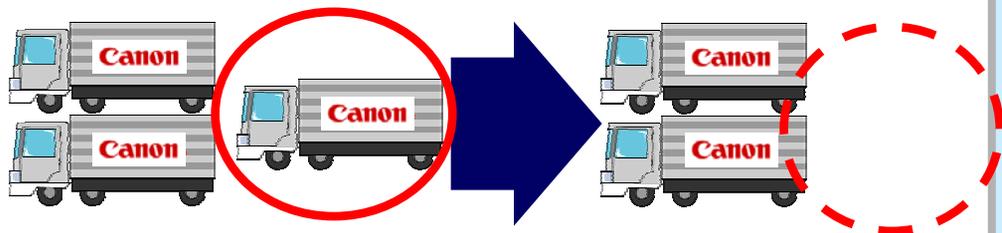
ポイント2
物流効率up

1台のトラックの
積載数が向上



ポイント3
輸送効率20%up
(CO₂排出量削減)

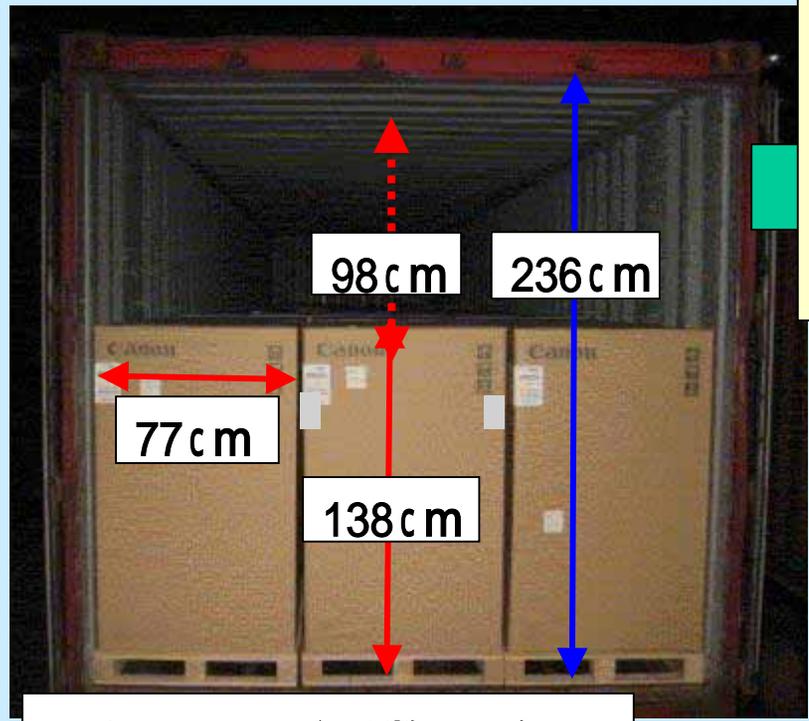
トラックの
使用数を削減



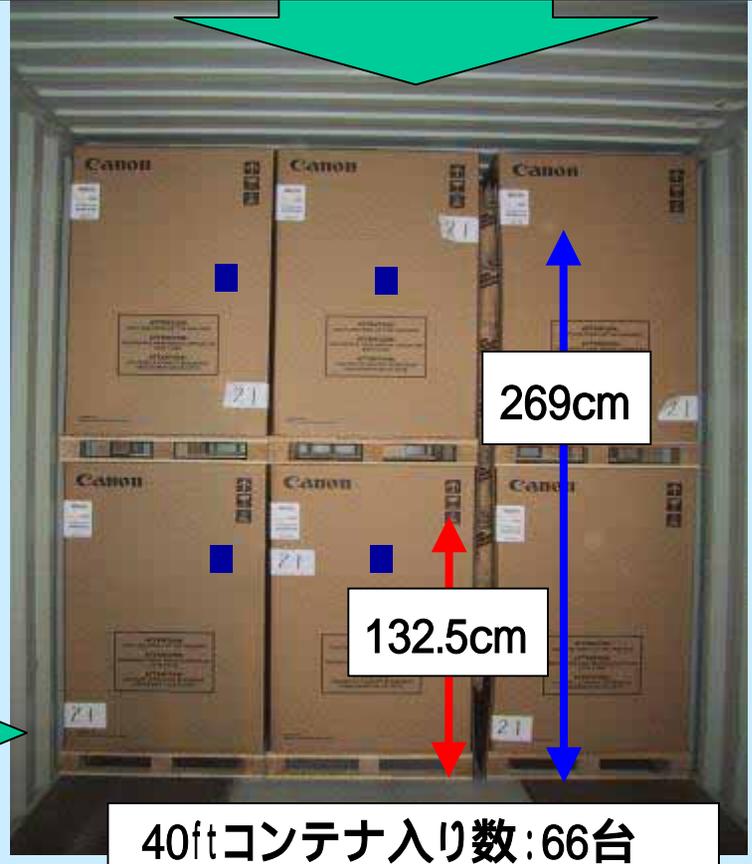


製品包装改善 大型事務機包装使用変更事例

改善対応：
 使用コンテナ 8 6"コンテナ 9 6"コンテナ
 包装設計変更
 高さ138cm 132.5cm



40ftコンテナ入り数:36台

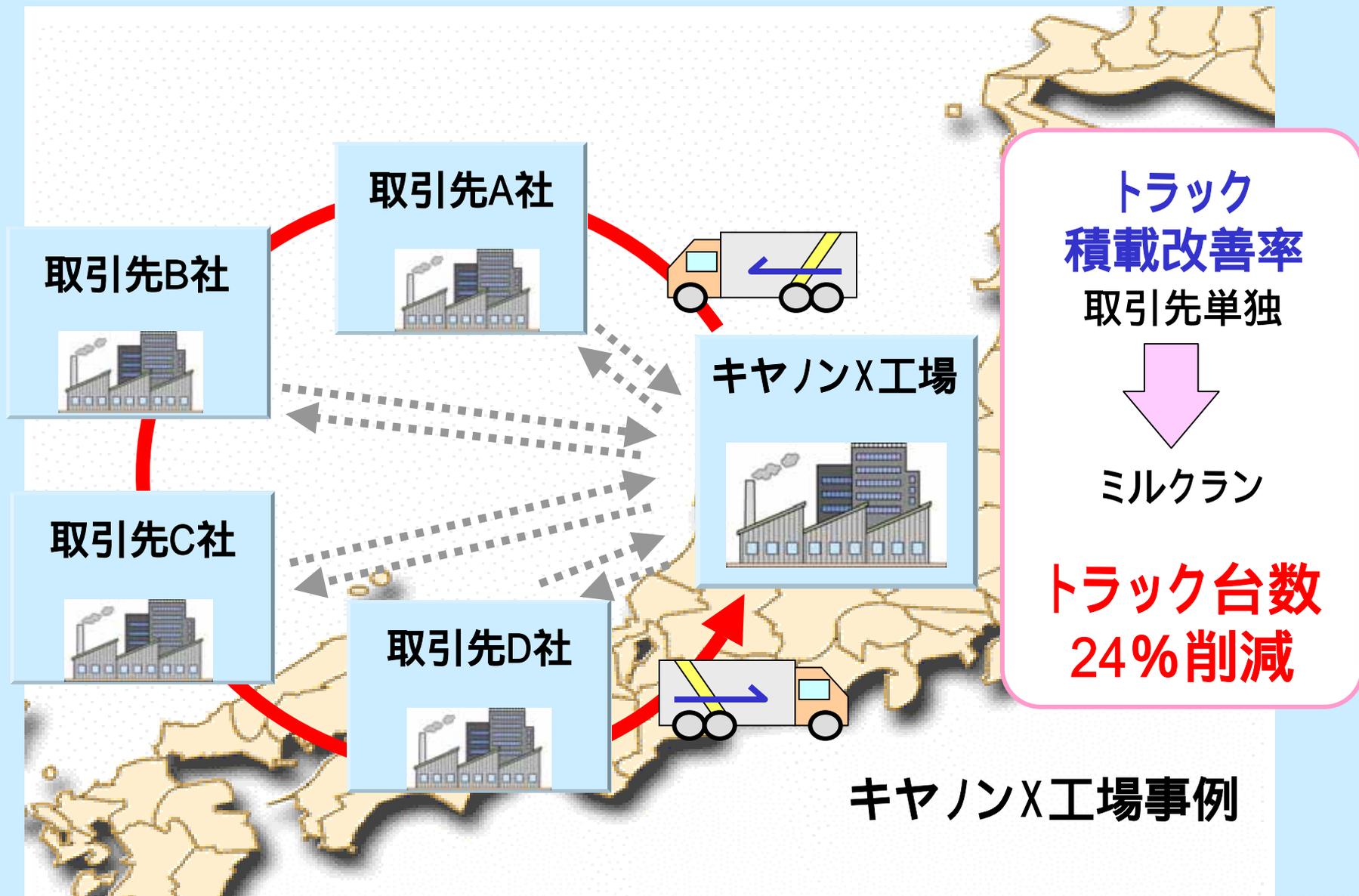


40ftコンテナ入り数:66台

改善
 積載効率8割向上



調達部品のみル克蘭輸送

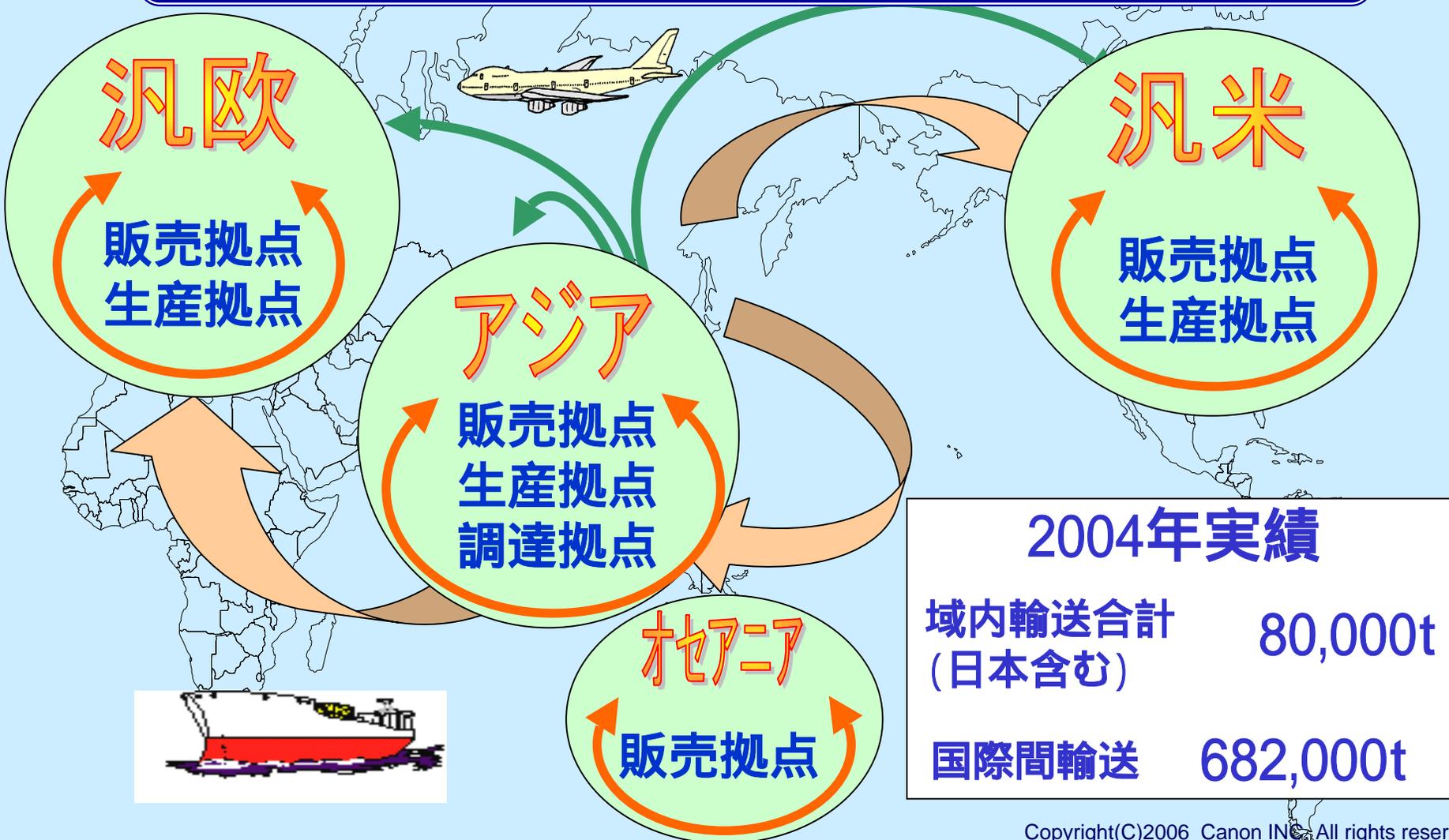




海外のCO2把握

2003年よりCO2排出実績の把握

基準値の作成





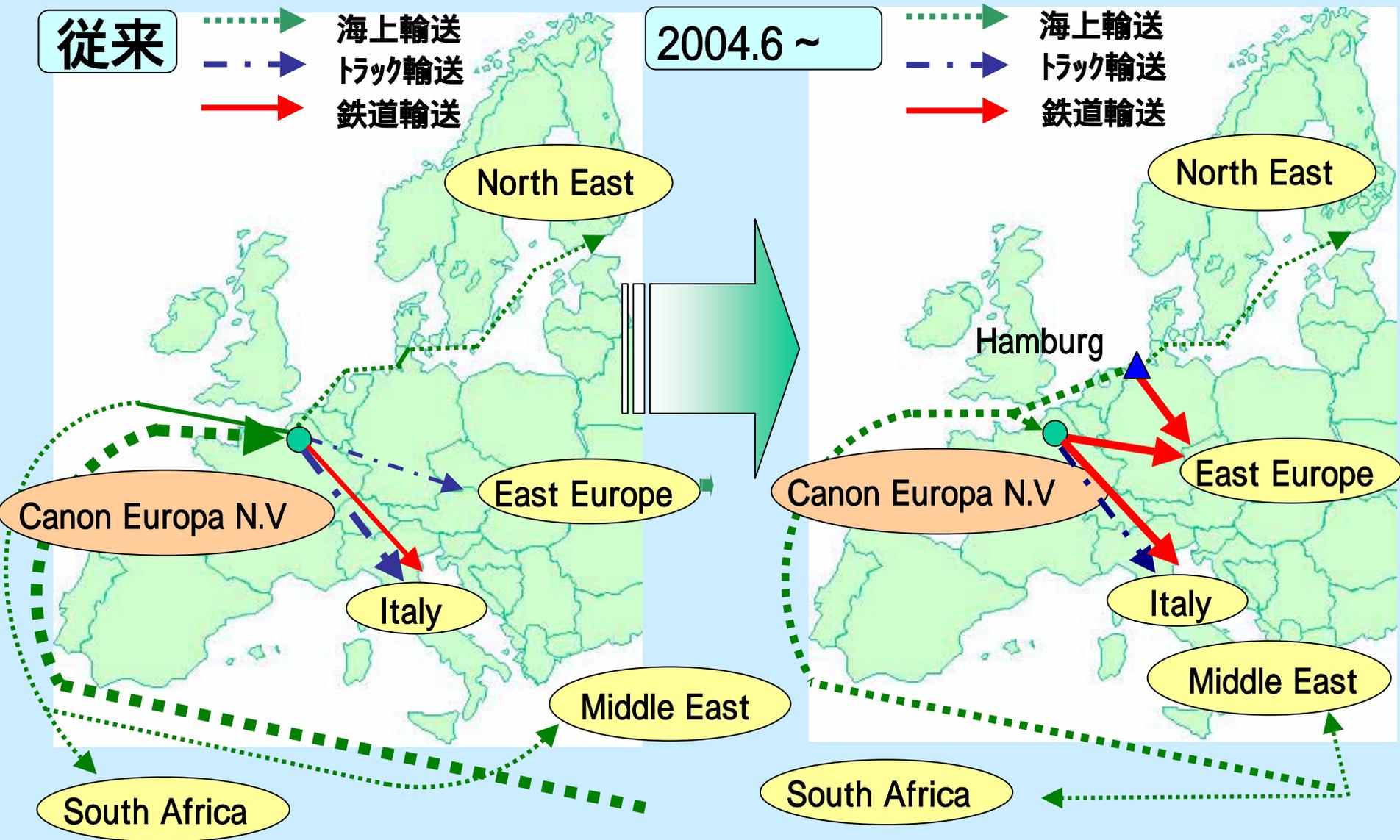
欧州ビジネスのDirect Shipmentとモーダルシフト

従来

- 海上輸送
- トラック輸送
- 鉄道輸送

2004.6 ~

- 海上輸送
- トラック輸送
- 鉄道輸送



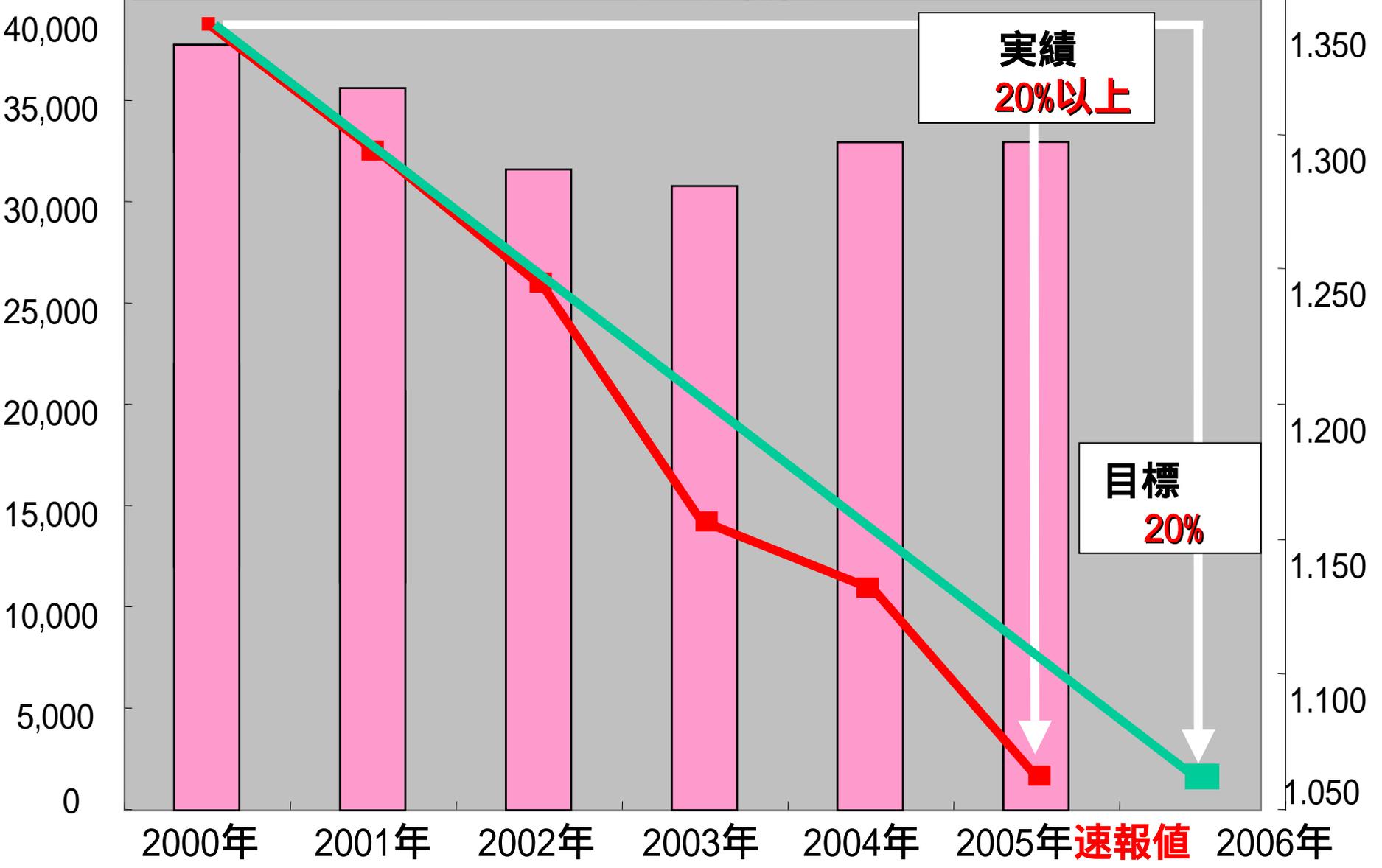


ロジスティクス国内環境目標と実績

CO2 総排出ト

2005年は速報値

1億円あたりCO2排出ト





ロジスティクス環境対応と合理化

エネルギー効率の良いロジスティクスの追求

より少ないエネルギーで
多く運ぶ

より少ないエネルギーで
目的地へ届ける

・輸送距離の短縮

・輸送手段の選択

飛行機 > トラック > 船舶 > 鉄道

9 : 1 : 1/4 : 1/8

積載効率の向上
空車走行の削減 等

Direct Shipment
倉庫配置戦略 等

安価な輸送手段の選択 等
トラック
飛行機 > 船舶
鉄道

従来の合理化活動

CO2

連動している

コスト

新しい管理ツールとなる



キヤノンが目指す環境経営

1. 企業価値・ブランド価値の向上
2. 環境配慮による製品の差別化
3. 省エネ・省資源生産によるコスト削減への寄与
4. 特定化学物質削減によるリスク回避
5. 新たなビジネスの創出
6. 地域社会、家庭での環境配慮



経営への貢献と、地球環境保護の両立

環境活動を進める事によって、収益を上げ成長する会社、
会社も個人も尊敬される会社



ご清聴ありがとうございました

(URL) <http://canon.jp/ecology/>

(E-mail) eco@web.canon.co.jp